

淡路地域広域ごみ処理施設整備・運営事業

審 査 結 果

令和6年12月

淡路広域行政事務組合

目 次

第1章 審査結果	1
第2章 総評	4
参考資料	
I 事業の概要	8
II 事業者選定までの経過	11
III 審査の手順及び方法	13

第1章 審査結果

1. 審査実施日

令和6年11月18日（月）

2. 落札者

【グループ名】「スカイ」グループ

【代表企業】川崎重工業株式会社 関西支社

3. 落札価格

【入札価格】29,612,000,000円（消費税及び地方消費税を含む） 落札率 60.90%

【予定価格】48,620,000,000円（消費税及び地方消費税を含む）

4. 審査方法

「スカイ」グループ（代表企業 川崎重工業株式会社関西支社）と「オーシャン」グループ（代表企業 カナデビア株式会社〈旧：日立造船株式会社〉）の2者から応募があり、プレゼンテーションにより、下記の淡路広域行政事務組合広域ごみ処理施設（新可燃ごみ処理施設）整備運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）の委員6名が審査を行った。

※ 応募者名については、審査の公正を図るため匿名とし、当組合が指定したグループ名

表1 選定委員会委員名

区分	所属	役職	氏名
学識経験を有する者	大阪工業大学	工学部教授	渡辺 信久
	元福岡大学大学院	工学研究科客員教授	浦邊 真郎
構成市を代表する者	洲本市	副市長	浜辺 学
	南あわじ市	副市長	喜田 憲和
	淡路市	副市長	山名 実
運営実務に知見を有する者	洲本市・南あわじ市衛生事務組合	やまなみ苑施設長	山田 孝文

5. 審査結果詳細

技術評価（60点）、価格評価（40点）の合計100点満点として、審査した結果、「スカイ」グループを選定した。

表2 審査結果

応募者 (グループ名及び代表企業)	入札価格 (消費税及び地方消費税含む)	入札率	総合評価※		
			技術評価点 (60点)	価格評価点 (40点)	合計 (100点)
「スカイ」グループ (代表企業) 川崎重工業株式会社 関西支社	29,612,000,000円	60.90%	50.94点	39.10点	90.04点
	(内訳)				
	設計・建設業務費 19,584,620,000円	運営・維持管理業務費 10,027,380,000円			
「オーシャン」グループ (代表企業) カナデビア株式会社	30,910,000,000円	63.57%	52.02点	36.43点	88.45点
	(内訳)				
	設計・建設業務費 19,267,600,000円	運営・維持管理業務費 11,642,400,000円			

※ 選定委員会において、落札者決定基準に基づき、最初に技術提案書を審査し技術評価点を算出し、その後、価格評価点を加えた合計（総合評価値）の最も高い者を最優秀提案者（落札候補者）として選定

6. 応募者グループ構成

表3 応募者グループ構成

応募者名	【落札者】「スカイ」グループ	「オーシャン」グループ
代表企業	川崎重工業株式会社 関西支社	カナデビア株式会社
SPC※出資企業	株式会社シンキ	カナデビア環境サービス株式会社 西日本支社
	株式会社日本管財環境サービス 大阪支店	中谷清掃株式会社
構成企業	淡路土建株式会社	株式会社森長組
	光洋建設株式会社	全淡建設株式会社
	株式会社ツダ	株式会社出雲建設
		株式会社柴田工務店

※ 本施設の運営・維持管理業務の実施（20年間）のみを目的として設立される特別目的会社

7. 評価結果

評価結果及び技術評価に関する各評価項目についての講評は表4に示すとおりである。

表4 技術評価点の評価結果及び講評

評価(審査)項目		番号	配点	「オーシャン」グループ	「スカイ」グループ	
		評価した事項				
事業全般に関する提案	1 事業全体に関する事項	①事業実施方針・体制	1	5	4.58	4.38
		・両グループとも、基本コンセプトを十分に理解した的確な提案がなされていた。				
		②施設の全体配置・動線計画	2	4	3.67	3.67
		・両グループとも、敷地条件を踏まえた動線計画や新施設供用開始後の既存施設の解体を行うこと等を踏まえた効率的な提案がなされていた。				
		③地元企業の活用・地域住民の雇用	3	5	4.38	4.17
・両グループとも、設計・建設業務では代表企業が地元企業とJVを組むことによる地元企業の活用、運営・維持管理業務では毎年地域住民の雇用を拡大していく計画など積極的な提案がなされていた。 ・特に「オーシャン」グループは、本事業を通じた地元発注や地域住民の雇用等について、貢献度の高い具体的な提案を高く評価した。						
基本コンセプトに関する提案	1 安全・安心かつ安定的にごみ処理が可能な施設					
	(1) 長期安定稼働・安全性・信頼性	①施設性能・安定稼働	4	6	5.25	5.25
		・両グループとも、AI等最新鋭の焼却技術を活用した安全性が高い提案がなされていた。				
		②地域との信頼関係の構築	5	4	3.67	3.33
・両グループとも、地域住民との信頼関係の円滑な構築に意を用いた提案がなされていた。						

評価(審査)項目	番号	配点	「オーシャン」	「スカイ」	
			グループ	グループ	
評価した事項					
2 周辺環境に配慮し、循環型・低炭素社会に寄与する施設					
(1) 周辺環境負荷の最小限化	①環境保全	6	5	4.38	4.38
	・両グループとも、要求水準書に示す基準を達成するため、最新の技術を活用した安全性、確実性の高い提案がなされていた。				
(2) 優れたデザイン性	①景観	7	5	4.17	3.96
	・両グループとも、クリーンなイメージの外観・デザインにより緑豊かな周辺環境との調和に配慮した提案がなされていた。 ・特に「オーシャン」グループは、里山景観との調和に配慮し、圧迫感を軽減させたデザイン計画等について高く評価した。				
(3) エネルギーの有効活用	①エネルギーの有効活用	8	4	3.50	2.83
	・両グループとも、環境負荷の低減に向けた積極的な提案がなされていた。 ・特に「オーシャン」グループは、発電及び省エネルギー対策などにおいて先進的なシステムとする提案を高く評価した。				
3 災害に強い施設					
(1) 災害時の継続的稼働・防災拠点機能	①災害時におけるのセーフティネットの確立	9	5	4.17	4.17
	・両グループとも、災害時に継続的な稼働を確保しつつ、地域住民への備蓄品の提供など災害時の具体的な備え・方策の提案がなされていた。				
4 地域に新たな価値を創出する施設					
(1) ごみ・環境問題を考える環境学習・環境教育	①環境学習施設	10	5	3.96	4.38
	・両グループとも、ごみの減量・再利用・再資源化など環境について考える機会の創出、淡路地域のイメージアップや愛着の醸成にもつながる工夫した展示について提案がなされていた。 ・特に「スカイ」グループは、環境問題等について、見学者がグループ単位で輪となって楽しく体感・学習できる効果的なプログラムを高く評価した。				
5 地場産建材等を積極的に活用する施設					
(1) 地場産建材等の活用	①地場産建材等の積極的な活用(地場産業の振興)	11	5	4.58	4.17
	・両グループとも、淡路瓦をはじめとした地元産品の積極的かつ多面的な活用の提案がなされていた。 ・特に「オーシャン」グループは、施設の外装、内装、舗装材などに淡路瓦の工夫した活用を提案し、かつ、安全面にも配慮した施設設計としている点を高く評価した。				
6 経済性、効率性に優れた施設					
(1) 整備・運営・維持管理の適正化	①事業収支計画	12	2	1.75	1.67
	・両グループとも、SPCとSPC出資企業とが連携した安定的な経営計画と事業収支計画の提案がなされていた。				
	②リスク管理・長寿命化対策	13	5	3.96	4.58
・両グループとも、様々なリスクを想定し、それに対応する方策など具体的な提案がなされていた。 ・特に「スカイ」グループは、独自の施設管理プログラムにより、30年間大規模補修・更新不要であることを明言した点を高く評価した。					
技術評価点合計		60	52.02	50.94	

基本コンセプトに関する提案

第2章 総評

本事業は、構成市から排出される一般廃棄物（可燃ごみ）を合理的、経済的かつ衛生的に処理するための新たな広域ごみ処理施設（エネルギー回収型廃棄物処理施設）を整備するものであり、30年間以上の安定稼働を目標としており、本事業を行ううえで、以下の6つの基本コンセプトを掲げている。

- ① 安全・安心かつ安定的にごみ処理が可能な施設
- ② 周辺環境に配慮し、循環型・低炭素社会に寄与する施設
- ③ 災害に強い施設
- ④ 地域に新たな価値を創出する施設
- ⑤ 地場産建材等を積極的に活用する施設
- ⑥ 経済性、効率性に優れた施設

本事業では、施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して発注するDBO（Design-Build-Operate）方式を採用しており、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・施工業務と効率的かつ効果的な運營業務を実施するものである。

選定委員会では、このような背景を踏まえ、選定基準及び選定方法等を定め、最優秀提案者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した2グループの提案は、いずれも本事業の特性を的確に捉えたうえで、本事業の有する課題に対応するため、両グループのノウハウ・実績をベースに創意工夫がなされた優れた内容のものであり、誠実かつ真摯な対応、提案に至るまでの多大なる努力に心より感謝申し上げる。

落札者決定基準に基づき、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、「施設性能・安定稼働」、「環境保全」、「環境学習施設」、「地場産建材等の積極的な活用（地場産業の振興）」、「地元企業の活用・地域住民の雇用」、「リスク管理・長寿命化対策」などを評価項目とする技術評価点（60/100点）については、カナデビア株式会社を代表企業とする「オーシャン」グループが、川崎重工業株式会社関西支社を代表企業とする「スカイ」グループを1.08点上回り、逆に入札価格による価格評価点（40/100点）については、「スカイ」グループが2.67点上回り、最終的に、総合評価点で「スカイ」グループが1.59点上回り、最優秀提案者となった。

両グループともに得点率が約9割となる他に例を見ない非常に質の高い提案であり、甲乙つけがたい内容であった。

最優秀提案者として選定した「スカイ」グループの提案は、淡路広域行政事務組合（以下「組合」という。）が期待する創意工夫と経済性を両立していると評価したものであり、特に技術評価では、「リスク管理・長寿命化対策」の項目について、独自の施設管理プログラムによる30年間大規模補修・更新が不要な補修・更新計画により維持管理等を実施すること、「環境学習施設」の項目については、環境問題等に見学者がグループ単位で輪となって楽しく体感・学習する機会を創出し、淡路地域のイメージアップや愛着の醸成にもつながる工夫した展示内容を高く評価した。

今後、組合と最優秀提案者として選定した「スカイ」グループ（代表企業：川崎重工業株式会社関西支社）には、下記の事項について、適切に対応していただくよう、選定委員会として要望する。

- ① 事業期間を通じて、要求水準事項及び提案事項を確実に履行すること。また、その履行に向けて、今後の設計、施工及び運営維持管理にあたっては、組合と十分に協議すること。

- ② 本事業は、既存施設を稼働させながら、狭小な敷地内で建て替えを行うものであり、渋滞対策及び安全対策に十分に配慮したうえで、円滑に工事が進捗するよう、組合と十分に協議すること。
- ③ 本施設の稼働データの活用を含む取扱い方法については、事前に組合と十分に協議すること。
- ④ 本施設にて発電した電力については、公共施設への自己託送等、淡路島内での有効活用方策について、組合と十分協議し、支援を図ること。
- ⑤ 事業期間を通じて、地元雇用と地元企業の活用提案を確実に実現するとともに、更なる拡大に努めること。
- ⑥ 災害規模に応じて、ごみの代替処理に加え、収集運搬を含めた様々な支援体制を構築し、災害時における組合への全面的な支援に努めること。
- ⑦ 環境学習において、施設見学ルートのバリアフリー化をはじめ、幅広い世代の誰もが親しみと興味を持てる施設を整備するとともに、社会変化に即応可能な環境啓発プログラムを構築し、学習内容等の陳腐化防止に努めること。

最後に、本事業が、組合と「スカイ」グループ（代表企業：川崎重工業株式会社関西支社）が協働し、特に①安全・安心な施設、②地域住民に親しまれる施設の両輪で他の類似施設の模範となることを期待するものである。

淡路広域行政事務組合広域ごみ処理施設（新可燃ごみ処理施設）
整備運営事業者選定委員会委員長 渡辺 信久

参 考 资 料

I 事業の概要

1. 事業名称

淡路地域広域ごみ処理施設整備・運営事業

2. 本事業の対象となる公共施設等の種類

エネルギー回収型廃棄物処理施設

3. 公共施設等の管理者

淡路広域行政事務組合 管理者 上崎 勝規

4. 事業目的

構成市（洲本市、南あわじ市及び淡路市をいう。）のうち、洲本市・南あわじ市から発生する可燃ごみはやまなみ苑で、淡路市から発生する可燃ごみは夕陽が丘クリーンセンターで焼却処理し、構成市の粗大ごみを奥畑粗大ごみ処理場で破碎処理を行っている。これらの施設はいずれも老朽化が進行し、補修費等維持管理コストの増加が課題となっており、施設更新が急務となっている。今後の淡路島内の人口減少等の状況も踏まえ、構成市によるごみ処理の広域化を行い、環境面に配慮した経済的かつ効率的な可燃ごみ処理施設（エネルギー回収型廃棄物処理施設）を整備することを目的とし、本事業は、新可燃ごみ処理施設の整備とその運営を行うものである。

本事業においては、本組合が新可燃ごみ処理施設の整備及び運営・維持管理を事業者に一括で長期的に発注することで事業者の創意工夫を活かし、事業費の縮減及び公共サービスの向上を図ることを目的とする。

5. 基本コンセプト

（1）安全・安心かつ安定的にごみ処理が可能な施設

ごみ量及びごみ質の変動に対応するとともに、長期安定稼働が可能な安全性・信頼性の高い処理システムを導入し、安心かつ安定してごみ処理を行うことができる施設を整備する。

ごみの受入れ・処理に係る情報を積極的に公開し、ごみ処理に係る行政の情報発信及び住民の安全・安心の確保に努め、建設予定地における地域住民との信頼関係を構築する。

（2）周辺環境に配慮し、循環型・低炭素社会に寄与する施設

最新の環境保全技術を導入するとともに工場排水の無放流化などを行うことにより、本施設周辺への負荷を低減し生活環境の保全に努める。

従来のごみ処理施設の外観・イメージを脱却し、建設予定地の周辺環境と調和する意匠・形態を考慮した施設を整備する。

省エネルギー化や電気・熱としての廃棄物エネルギーの効率的な回収を進めるとともに、地域のエネルギーセンターとして循環型・低炭素化社会への寄与に努める。

（3）災害に強い施設

構成市の核となる新可燃ごみ処理施設は、地震や風水害等によって稼働不能とならないよう、施設の耐震化、浸水対策等を推進し、施設の強靱化を図る。

災害時は、通常のごみ処理に加えて、災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理するための拠点と位置づけ、大規模な災害が発生しても施設の稼働を確保するとともに、一定期間で災害廃棄物の処理が完了するよう、処理能力に一定の余裕を持たせるものとする。

(4) 地域に新たな価値を創出する施設

新可燃ごみ処理施設は、ごみの適正な処理に加え、ごみが有するエネルギーを高効率に回収することにより、地域のエネルギーセンターとしての機能や、処理工程の見学など、多くの人が学びふれあうことができる機能を備えた環境学習・環境教育の場を提供する。

(5) 地場産建材等を積極的に活用する施設

新可燃ごみ処理施設の建設にあたっては、施設への適合性や経済性を検討した上で、再生可能な資源としての特性を有する兵庫県産木材の利用を図るとともに、淡路瓦をはじめとした地元産品を活用するなど、地場産業の育成に寄与するものとする。

(6) 経済性、効率性に優れた施設

ごみ処理の広域化・集約化を行うことにより、施設の建設費(イニシャルコスト)のみならず、維持管理費(ランニングコスト)を含めた、ごみ処理経費の効率化を図り、経済性に優れた施設を整備する。

将来的な設備機器の補修・更新に配慮した配置計画やメンテナンススペースを確保することにより、その際のコストを節減できる施設を整備する。

6. 本施設の概要

本施設の概要を表6に示す。

表6 本施設の概要

全 体	名 称	可燃ごみ処理施設 (エネルギー回収型廃棄物処理施設)		
	建設予定	兵庫県南あわじ市広田広田地内		
	事業実施 区域面積	全体面積約 30,000 m ² (平地面積約 19,000 m ²)		
エネルギー 回収型廃棄 物処理施設	処理方式	ストーカ式焼却方式 (全連続燃焼式)		
	施設規模	153 t/日 (76.5 t/24h × 2 炉)		
	処理対象物	可燃ごみ、選別資源化後可燃残渣、災害廃棄物等		
	発電設備	あり		
その他 付帯施設	計量棟、駐車場、構内通路、排水設備、植栽、門扉、洗車場等			
環境 保全基準	組合として法基準より厳しい自主規制値を設定 (数値は下表のとおり)			
	項 目	単 位	法基準値	自主規制値
	ばいじん	g/m ³ N	0.08 以下	0.01
	塩化水素 (HCl)	mg/m ³ N	700 以下	(81)
		ppm	(約 430 以下)	50
	硫酸酸化物 (SOx)	ppm	K 値 17.5※	20
	窒素酸化物 (NOx)	ppm	250 以下	50
	水銀	μg/m ³ N	30 以下	30
	ダイオキシン類 (DXN)	ng-TEQ/m ³ N	1 以下	0.05
注1) () 内の値は換算値を示します 水銀及びダイオキシン類の法基準値は施設竣工時期で異なります				
注2) ※のK値は地域ごとに定められる係数であり、K値、煙突の高さ、排ガスの量などをもとに算出				

7. 事業方式

本事業は、本施設の設計・建設及び本施設の運営に係る業務を事業者が一括して行うDBO方式により実施する。

本組合は本施設の設計・建設及び運営・維持管理に係る資金を調達し、本施設を所有する。事業者は、施設を設計・建設し、建設後 20 年間の運営・維持管理を行うこととする。なお、新施設の運営・維持管理業務の実施主体としての S P C の設立は、任意とする。

8. 事業期間

事業期間は次のとおりとする。

- (1) 事業期間 : 事業契約締結日から令和 31 年 3 月 31 日まで
- (2) 設計・建設業務期間 : 事業契約締結日から令和 11 年 3 月 31 日まで
(試運転を含む正式引渡しまでの期間)
- (3) 運営・維持管理業務期間 : 令和 11 年 4 月 1 日から令和 31 年 3 月 31 日まで
(20 年間)

9. 本事業の対象となる業務範囲

事業者が行う本事業の範囲は次のとおりとする。

(1) 事業者が行う主たる業務

ア 本施設の設計・建設業務

- (ア) 本事業に必要な調査及び事業者が行うべき諸官庁届出業務
- (イ) 本施設の設計・建設
- (ウ) その他必要な工事
- (エ) 本組合が行う交付金申請など必要な諸官庁届出等の支援
- (オ) 本組合が行う近隣住民対応などのその他必要な支援

イ 本施設の運営・維持管理業務

- (ア) 運転管理業務
- (イ) 維持管理業務
- (ウ) 測定管理業務
- (エ) 防災管理業務
- (オ) 関連業務 (植栽管理、見学者対応等)
- (カ) 情報管理業務

(2) 本組合が行う主たる業務

ア 本施設の設計・建設業務に関する業務

- (ア) 用地の確保
- (イ) 敷地造成工事
- (ウ) 住民対応
- (エ) 本施設の交付金申請手続など必要な諸官庁届出業務
- (オ) 本施設の設計・建設工事監理
- (カ) その他これらを実施する上で必要な業務

イ 本施設の運営・維持管理業務に関する業務

- (ア) 住民対応
- (イ) 運営モニタリング
- (ウ) 本施設への一般廃棄物等の搬入 (構成市が行う。)
- (エ) 副生成物等の搬出・処分 (積込みは事業者が行う。)
- (オ) 売電に関する契約業務
- (カ) その他これらを実施する上で必要な業務

II 事業者選定までの経過

1. 事業者の募集及び選定の方法

応募希望者の自由な提案を期待し、適切な技術力、経験及び実績を持つ事業者を選定することとし、事業の透明性及び公平性の確保に配慮したうえで事業者を選定する総合評価一般競争入札方式（地方自治法施行令第167条の10の2）により実施した。

2. 事業者の募集及び選定スケジュール

募集及び選定スケジュールは表7のとおりである。

令和6年4月8日に入札公告を行い、令和6年5月16日を期限として入札参加資格申請を受け付けたところ、2グループから申請があった。

事務局は入札参加資格の確認を行い、令和6年5月24日に代表企業に対して入札参加資格を有することを書面にて通知した。

令和6年9月30日を期限として入札参加資格を有する2グループから技術提案書が提出され、応募者から提出された技術提案書の内容が、要求水準書に示す要件を満たしていることを確認し、その結果を令和6年10月29日に応募者の代表企業に対して基礎審査を通過したことを書面にて通知した。

表7 選定スケジュール

日 程	内 容
令和6年 4月 8日	入札公告及び入札説明書等の公表
令和6年 4月 15日～	現地視察
令和6年 4月 19日	入札説明書等（参加資格関係）に関する質問受付期限
令和6年 4月 30日	入札説明書等（その他）に関する質問受付期限
令和6年 5月 2日	入札説明書等（参加資格関係）に関する質問回答の公表
令和6年 5月 16日	入札参加資格審査書類受付期限
令和6年 5月 24日	入札参加資格審査結果通知
令和6年 5月 31日	入札説明書等（その他）に関する質問回答の公表
令和6年 6月 7日	質問回答及び提案事項に関する確認事項の受付期限
令和6年 6月 25日	対面的対話
令和6年 7月 10日	質問回答及び提案事項に関する確認事項の回答公表
令和6年 9月 30日	事業提案書の受付期限
令和6年 10月 29日	技術提案書等の基礎審査結果通知
令和6年 11月 18日	ヒアリング及び開札
令和6年 12月 上旬	落札者の決定及び公表

3. 選定委員会の開催経過

本事業における選定委員会の開催経過は表8のとおりである。

表8 選定委員会の開催経過

項目	開催日	内容
第1回	書面表決等	委員長選出、事業概要について
第2回	R5年10月23日(月)	入札公告資料等に関する協議(初回) ・実施方針(案)の内容について ・要求水準書(案)の内容について
第3回	R6年1月12日(金)	入札公告資料等に関する協議(中間) ・要求水準書(案)の内容について ・特定事業の選定に係る公表資料について ・入札説明書(案)の内容について ・落札者決定基準(案)の内容について ・契約書(案)、様式集(案)の内容について
第4回	R6年3月27日(水)	入札公告資料等に関する協議(最終) ・要求水準書(案)の内容について ・入札説明書(案)の内容について ・落札者決定基準(案)の内容について ・契約書(案)、様式集(案)の内容について
第5回	R6年10月18日(金)	基礎審査結果等の報告 審査基準の確認 ヒアリング当日のタイムスケジュールについて
第6回	R6年11月18日(月)	最終審査 最優秀提案者の選定 審査結果(案)の内容について

Ⅲ 審査の手順及び方法

1. 落札者決定の手順

本事業における落札者の決定は、以下に示すように、第1段階の「資格審査」、第2段階の「総合評価」の2段階で実施した。

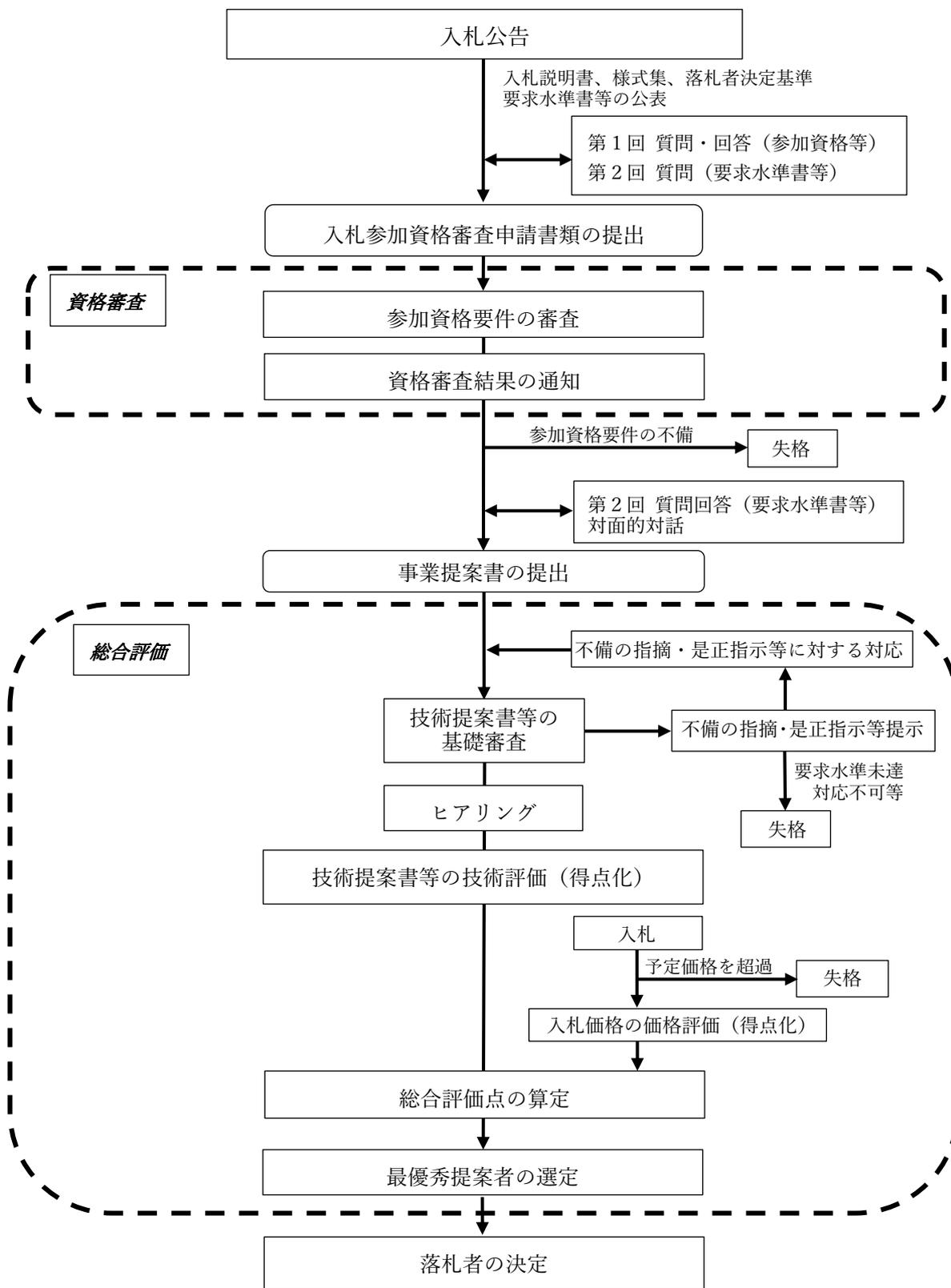


図1 落札者決定までの流れ

2. 審査概要

(1) 資格審査

入札参加資格審査申請書等の提出書類により、入札説明書に記載の入札者の参加要件を満たしているかを確認した。

参加資格要件の資格審査基準日は、入札参加資格審査申請書の提出期限日とした。

(2) 総合評価

技術評価及び価格評価により総合的に評価を行った。

ア 審査の配点

総合評価を行ううえでの技術評価点及び価格評価点の配点は次のとおりとした。

表9 評価の配点

項目	配点
技術評価点	60点
価格評価点	40点

イ 技術提案書等の確認（基礎審査）

提出された提案書類について、次に掲げる基礎審査項目の内容を審査した。

(ア) 技術提案書等の内容が、要求水準書等に示す水準を満たしていること。

(イ) 技術提案書等の内容が、入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件に違反していないこと。

(ウ) 応募者に対して提示した修正事項へ対応が不可でないこと。

ウ 提案書に関するヒアリング

選定委員会は、提案書の審査及び評価を行うにあたり、応募者に対し、ヒアリングを行った。

なお、ヒアリングについては、応募者独自のノウハウに関する内容も含むことが想定されることから、非公開のもとで実施した。

エ 技術提案書等の技術評価

本組合が提示する入札説明書等（入札説明書、要求水準書、様式集、落札者決定基準、契約書案等）により提案された技術提案書の評価項目及び配点を表10に示す。

評価項目及び配点については、本組合が本事業に期待する事項の必要性又は重要性を勘案して設定したものである。

表 1 0 技術提案書の評価項目及び配点

分類	評価(審査)項目	番号	主な評価(審査)ポイント (実現性・実行性、効果等妥当性を評価)		配点
事業全体に関する提案	①事業実施方針・体制	1	ア 円滑な事業実施に向けた方針、建設・運営管理に係る計画・体制(全体的な考え方、配慮・工夫等特色、当組合や企業間の連携等)		5
	②施設の全体配置・動線計画	2	ア 敷地条件や新施設供用開始後の既存施設解体を行うこと等を踏まえた全体配置計画 イ 車両と車両、車両と人に対する安全確保についての動線計画 ウ 作業動線やメンテナンススペースの確保などの点検修繕に配慮した施設内計画 エ ごみピット内への落下防止対策等のプラットフォーム内での安全対策		4
	③地元企業の活用・地域住民の雇用	3	ア 地元企業の活用内容・地域貢献額(工事発注額・資材調達額等)、地域住民の雇用計画人数等【定量】 イ アを達成するための具体的な計画及び実行を担保する工夫		5
1 安全・安心かつ安定的にごみ処理が可能な施設					
(1)長期安定稼働・安全性・信頼性	①施設性能・安定稼働	4	ア ごみ量及びごみ質の変動に対し、長期安定稼働が可能な安全性・信頼性の高い処理システムの構築 イ 処理残渣の将来的な資源化・有効活用の方策		6
	②地域との信頼関係の構築	5	ア 建設予定地における地域住民との信頼関係の構築 (ア) 運転状況に係る情報等の適切な発信・提供 (イ) 地域住民の要望等への対応		4
2 周辺環境に配慮し、循環型・低炭素社会に寄与する施設					
(1)周辺環境負荷の最小限化	①環境保全	6	ア 要求水準書に示す排ガス、騒音、振動、悪臭等の基準値を遵守する手法と万が一超過した場合の具体的な対処方法		5
(2)優れたデザイン性	①景観	7	ア 緑豊かな周辺環境と調和しつつ、クリーンなイメージの外観・デザイン(要イメージパース) イ 長期にわたって竣工時の美観を保持するための対策		5
(3)エネルギーの有効活用	①エネルギーの有効活用	8	ア 年間売電電力量等【定量】 イ 発電の効率性・安定性確保の方法、電力の地産地消等エネルギーの活用アイデア ウ 温室効果ガスの削減、省エネルギー・再生可能エネルギー機器の導入、敷地緑化等、環境負荷の低減に資する方策		4
3 災害に強い施設					
(1)災害時の継続的稼働・防災拠点機能	①災害時におけるセーフティネットの確立	9	ア 災害時における継続的稼働のための備え・方策(設備、人員体制等) イ 災害時における地域への貢献 ウ 災害廃棄物を適正に処理するための方策、大規模な災害が発生した場合の対応策		5
4 地域に新たな価値を創出する施設					
(1)ごみ・環境問題を考える環境学習・環境教育	①環境学習施設	10	ア 環境学習施設の展示内容等 (ア) 廃棄物処理に起因する環境影響問題についての展示 (イ) 淡路地域のイメージアップや愛着の醸成についての展示 (ウ) 上記(ア)(イ)に関する効果的なプログラム及び陳腐化防止策 イ 見学者対応 (ア) 見学者の受入体制・受入規模 (イ) 効果的な見学ルート		5
5 地場産建材等を積極的に活用する施設					
(1)地場産建材等の活用	①地場産建材等の積極的な活用(地場産業の振興)	11	ア 兵庫県産木材の利用や、淡路瓦をはじめとした地元産品の積極的な活用方針 イ 施設への淡路瓦の使用表面積・使用場所・使用形態【定量】		5
6 経済性、効率性に優れた施設					
(1)整備・運営・維持管理の適正化	①事業収支計画	12	ア 事業収支計画について、安定運営を担保するための方策		2
	②リスク管理・長寿命化対策	13	ア リスク管理マニュアル イ 運営に係る自主点検(緊急対応訓練等)の実施内容、頻度等 ウ 30年以上の長期にわたる施設の使用を見据えた補修・更新計画 エ 長期稼働を見据えた維持管理補修費・用役費・人件費削減のための方策		5
技術評価点合計					60

オ 技術提案書等の得点化

(ア) 技術提案に関する得点化方法

評価項目ごとに、次に示す5段階評価を行い、得点化した。

表 1 1 技術提案書の評価判断基準

評価	判断基準	配点率
A	提案内容が非常に優れており、かつ、その効果が期待できる。	配点×1.00
B	提案内容が優れており、かつ、その効果が期待できる。	配点×0.75
C	提案内容の効果が期待できる。	配点×0.50
D	提案内容の効果がある程度期待できる。	配点×0.25
E	要求水準を満たしている程度。	配点×0.00

(イ) 算定式①により、各評価項目の評価点を算出した。各評価項目の配点に、判断基準のAからEまでの5段階の配点率を乗じて評価点とした。(点数は小数点以下第3位を四捨五入した値とした。)

算定式①【各評価項目の評価点の算定式】

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{各評価項目の評価点} \end{array} \right) = \frac{\text{各委員 (各評価項目配点} \times \text{評価) の合計}}{\text{選定委員会委員の人数 (6名)}}$$

カ 開札及び入札価格の確認

提出された入札金額が予定価格を超えていないことを確認した。なお、入札価格の確認のための開札は、提案書の定量化審査終了後、入札説明書に定めた方法により実施し、入札金額が予定価格を超えていない提案のみ入札価格の得点化を行った。

キ 入札価格の得点化

応募者の入札価格について、次の算定式②により価格評価点を算出した。価格評価点は小数点以下第3位を四捨五入した値とした。

算定式②【価格評価点の算定式】

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right) = \left(1 - \frac{\text{入札価格}}{\text{予定価格}} \right) \times 100$$

※ 40点を満点とする。(算出された価格評価点が40点以上であった場合は40点とする。)

ク 総合評価値の算定方法

「オ 技術提案書等の得点化」及び「カ 入札価格の得点化」により算出した各応募者の評価点から、次の算定式③により、各応募者の総合評価値を算出した。

また、総合評価値の最も高い提案書を最優秀提案者として選定した。

算定式③【総合評価値の算定式】

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術評価点} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right)$$